

## SOS/VOD の診断および経過観察にHokUS10と肝硬度測定の使用が有用であった1例

◎松田 美津子<sup>1)</sup>、山寺 幸雄<sup>1)</sup>、結城 莉沙<sup>1)</sup>、石橋 伸治<sup>1)</sup>、幕田 倫子<sup>1)</sup>、志村 浩己<sup>1)</sup>  
福島県立医科大学附属病院 検査部<sup>1)</sup>

【はじめに】造血幹細胞移植後の合併症である類洞閉塞症候群/肝中心静脈閉塞症 (SOS/VOD) は、重症では高率で死に至る重篤な疾患である。今回、超音波検査 (US) にて HokUS-10 (HokUS) および肝硬度 (SWE) 測定を併用することにより、SOS/VOD の早期診断ならびに治療効果判定に有用であった症例を経験したので報告する。【症例】10 代、男児。急性骨髄白血病の診断にて造血幹細胞移植を実施。SOS/VOD のリスク管理として、HokUS および SWE を施行した。〔治療前〕HokUS:1 点、SWE 未測定。〔移植後 7 日〕HokUS:0 点であったが、SWE1.70m/s とやや高値であった。〔移植後 21 日〕胆嚢壁が 8 mm と肥厚し、傍臍静脈に少量の血流シグナルと少量の腹水が出現し、HokUS:6 点となった。SWE1.94m/sec と上昇。臨床所見も併せて SOS/VOD と診断され、治療薬デフィブロチドナトリウムの投与を開始した【経過】〔治療後 7 日〕胆嚢壁は 4mm と改善して HokUS:4 点と低下したが、SWE は 2.09m/s と高値が持続。〔治療後 14 日〕傍臍静脈血流や腹水が消失し、HokUS:2 点と低下したが、SWE1.89m/s と高値を維持。〔治療後 21 日〕

傍臍静脈に血流シグナルが再度出現し、HokUS: 3 点とやや増加。SWE が 2.51m/s と著明に上昇したため治療を継続。〔治療後 28 日〕SWE は 1.59m/s と低下したが、傍臍静脈の血流シグナル残存とごく少量の腹水が再度出現して、HokUS:4 点と上昇傾向を認めたため治療を継続。〔治療後 35 日〕傍臍静脈の血流シグナルおよび腹水が消失して HokUS:2 点、SWE1.43 m/s と低下したため投薬が終了となった。【考察および結語】SWE は肝の線維化評価に用いられるが、近年は SOS/VOD において肝のうっ血や門脈圧亢進により上昇すると報告されている。本症例では HokUS、SWE とともに SOS/VOD の発症で上昇し診断に有用であったが、経過観察では両者の変動に若干の乖離がみられた。SWE は肝うっ血を鋭敏に反映するが、HokUS は傍臍静脈の拡張や腹水など門脈圧亢進による二次所見を含むことからタイムラグが生じた可能性が推察された。両者を併用することで、SOS/VOD の多角的評価が可能となり、早期診断に加えて経過観察における治療効果判定にも有用であると思われた。(連絡先 024-547-1469)